

こと言う役割を私はもらって、だから「きらっとひかる」を割りに見ててくれはってね、教育テレビやけども…。道でよう声掛けられるんですよ。「きらっと生きる」にちらっとでてる牧口さんって…。

(一同笑い)

牧口： そんな立場です…。

学生： 毎回何かのテーマでもし、なんか牧口さんにとって新たな発見みたいなのは…

牧口： いっぱいある！！毎日ある！！

学生： もしそのコメントを求められた時、困ることってありませんか？

牧口： そんなないがなー。私が一番得意とする世界やんか！！(笑い)

そらな、大きな大事件で社会に影響力のあることまるで障害者の代表みたいに語らないかんっていうようになったら困るよ。ね？そんなときは僕は正直に、「ちょっと難しくて今わかりません」とか言う言い方をする。せやけど、だいたいびっくりするような人でくれるんだけど、「あ！そうか。そんな考えかたあるんだ」とか「こんな生き方してる人おった！！」って僕自身が感動するようなゲストが多いわけやから、そのまま感動びっくりしたと言う言い方で、「うわあ！あんたすごいなあ！！」とか「あんま頑張るすぎんと生き抜いていきや」とか適当なことを…。僕はだいたいね、頑張れとかそんな嫌いやから、根性がきらいなんですよ。根性いっぱいの人がでてきたら、茶化してます。「そんなにしっかりいきんでも、もうちょっとええ加減にいきや」ってその人が気に触らない程度に茶化す役割を私がやっています。困ることちゃうで。

(一同笑う)

牧口： だれか僕が参った、やっつけてっていうのはないか？はい。

— 朝のラッシュどう対処しているか？ —

学生： さっき、地下鉄の運動してるとおっしゃってましたけど、ちょっとお聞きしたいのは、地下鉄とかだったら朝とかすごいラッシュじゃないですか？もしそれに乗る時っていうのは、普通健常者っていうのは、すし詰めになっても入る事ができるけ

ども、障害者っていうのは、特に車椅子を使ってはる人はちょっと入らないじゃないですか？そういうのもし出かけたっていうときというのは、わざわざそういう時間をずらして、移動して行くようにしはるんですか？

牧口： それ僕が参ったっていうのにだいぶ接近してる。ニアミスまでしてる。

学生： （笑い）

牧口： お昼半分おごってあげる。

学生： （笑う）

牧口： 実はですね、僕満員電車にのって、その時松葉杖だったけども一度死ぬ思いしてる。乗る駅はまだそうでもなかったんよ。ところが、どんどん、停まる駅でどんどん乗ってくんねん。ほんでね—もちろん朝やから座るとこどこもなくてね、私も立ってたんですよ。そしたら、押されるでしょ？もう人と人の間に挟まって、松葉杖が人の間に挟まってまんねん。

（一同笑う）

ほんならね一人に松葉杖とられたら僕もうへたるしかないやん。だけどへたったらそれこそ将棋倒しになるのわかるやん？我慢した—必死になって耐えた—あの時はしんどかった—。ところがね、そんな状態やから降りる駅でおりられへんねん。結局終点までいってんな。終点でおろされて、エライ遅れて行ったことがあるんよ。それよりも僕、生きられるかと思っただくらい危険感じた。それから僕ラッシュアワー避けるようになってんな、せやからラッシュ避けるんやけど、まあお金は多少かかるけどタクシーでいくとかね、どうしても行かなければいけないときは。例えば友達の人に手配するとか。いろんな方法ないことはない。やりくりがつくことだけど、きついのはきつい。はい、お弁当半分。

はい、ないですか？今のがちょっとヒントになるんやけど、僕が日常生活で困ってることがないとしたら、仮にやで、みんな思いつかないかもしれないけど、だとしたら僕、障害者とちがうん？ 思いませんか？ 障害者ってどんな人のことをいうん？

— 牧口さんの捉える障害観とは… —

牧口： これもね、僕の一つの考えかたやおもって聞いてね。65歳になるまで障害者運動やってきた一人の人間として感じてることはね、体つきとか、精神の持ちようやで障害者とレッテル貼られることではなくて、私が考えてる障害というのは、日常生活を一生懸命生きようと思っているのに邪魔をされたり、足を引っ張られたりして自分の思うように生きれなくなってる人。

しかも、人間思うように生きれないのは人間誰だってそうやん？好きな大学に行きたかったけど、入れなかったって言う人もおるわけやん。で、生き死にかかわるようなハメにあってる人、それを僕は障害者と思う。私の考えてる障害者観っていうのは、そういうのなんだけど。っていうか、疑問があったら疑問どおりいうてほしいんだけど。

もう一度言うね、一人の人間が一生懸命自分の人生を生きようと思っているのに、理不尽な状態で邪魔されたり、足を引っ張られたりして自分のように生きれなくなってる人で、生き死に関わるような邪魔をされてる人。まあ、生き死に関わるっていうのもね、受け止め方広いと思う。例えばね、恋人と切り離されたりっていうだけで、生き死に関わってまうわけだね。それぐらいやったら乗り越えるっていう人もいるから、一概には言えないんです。けど、いちを自分の命をかえるほど重大な邪魔をされている、っというのかな、それを私は障害者っていうんだと思う。

だから、被差別部落に育ったからというて、理不尽なわけのわからない理由で結婚を反対されて、とうとう突らなかって、自殺を考えた人とかね、そういう立場にいる人を僕は障害者というんだと思う。一人の人間の体つきではないと私は考えてるんですが…。そういう僕の障害者観から言うとね、皆さんに考えてもらって僕に日常生活に困ったことがなかったら、僕は障害者ではないわけね。僕の障害者解放運動っていうのは、そういう困った状態にある人を助ける運動なんです。助けるっていうか、その人が自分の思った道に行きやすくするのが僕の障害者運動と思って私はそている。

これもあれやで。1つの切り口で言うとそういう話になるということであって、世の名の障害者観がそうならいいという話と別問題。僕、いちをちゃんと障害者手帳もってるもん。だから世間では私は障害者ね。行政的に言えば、障害者と言ったらいいのかな？1級から6級まであるんですよ。正確にいうと7級までなんですけど。重い人から、1級2級3級…と軽くなっていって一番軽い人が7級でほとんど問題ないからいちを6級までね。1級と2級が重度障害者と社会では言うんです。3級と4級は中度障害者、5級6級が軽度の障害者と大雑把にいうとるんですよ。はい、私何級で

しょう？

これも当てた人お弁当！

(一同笑い)

牧口： これくらい当てられるやろ？1級とか3級、4級っていったらおしまいやん！

学生： 2級……。

牧口： 2級？正解やわー。

(一同笑い)

牧口： ということは、私は重度障害者のカンチに入ってんで、行政的には。その行政に重度障害者の一人と言われてる私が日常生活で困ったことないっておかしいないか？おかしいやろ？皆さんの障害者観だいぶ変わってきたんちゃう？

そーなんよ。日常生活の障害者観がどんだけ誤解の中で行われてるか、よーわかるやろ？そうなんです。何にも本質を考えてない、見た目で判断してる。見た目だけで世の中どんだけ振りまわされてるか分かるよな？なんで日本人はこんなに中身を丁寧に考えようという気持ちが育ってないのかね？はっきり言うて小学校からの教育が間違ってるよ。なんでこんなに人をうわべだけでしか判断できないかね？そんな人間になってもうたわけ、私たち。

1つを丁寧に丁寧に掘り下げて考えようというそういう機会あらへんがな、今の子どもたちはかわいそうに……。まあはっきり思うよ。こんなくらいこと言いたくないけど。日本だめになるでーこのままにしてたら……。完璧に取り残されると思うよ。私は単純な予感やけど暗い意味で言うとそんな予感を多少持ってますね。まあ、多少にとどめとくな、ほんまは相当もってんやけど、あんま言ったらくろーなるやろ？やっぱあ、くろー言い方したらいかんやろ？まあ、それはさておいて僕の困ってることもうちよつとさがしてーね。重度障害者やで。はい。

— 牧口さんの経験から生まれたトイレの方法とは？ —

学生： お手洗いとか……

牧口： いちを苦労してるんだけど、お手洗いできひんかったら人間生きてられへんやん？

学生： だから考えたんですけど、公共用のトイレって男性は知らないんですけど、女性は和式の便器が多かったりとか、あと戸口が狭かったりとか、そういう車椅子で入れるトイレがどこにでも必ず設置されているものではないし、日常…出かけるのわかっていて事前に済ませることができても、やっぱり途中で途中の移動で長時間だと使うことがあるとか…困られると思うんですよ…。

牧口： そうやな一。僕のさ一特に生きてきた時代をもう一度1937年やで、私の子供のころバリアフリーとかいう言葉もあらへん。障害者に配慮した建物とかなんもない時代やろ？僕、はえずりまわって遊んだり、松葉杖でかろうじて歩けるようになってさ、僕少年期はそういう時代やん？友達と遊んでて急にうんちしたくなってトイレはあるやん？公園なんかの…。そんなん普通のトイレやん？しかもしゃがまないかんトイレばかりやん？まだ洋式トイレもない時代やから。ほんならね一僕のこの片足でねしゃがむってほとんどむりね。

だからね、僕どうしてたかっていうといつでもポケットにティッシュをいっぱい入れてたんよお。ほんでトイレに行くでしょ？トイレにいったら、紙でまず便器をふく、きれいにね。きれいにふいて直にそこにおしりをつけてうんちやってた。それが僕のうんちのやり方やってんね。そしたらやっぱり自分ではきれいに拭いたつもりでも気持ち悪いやん？ほんで僕いつのまにかお風呂大好きになってね、そういう日はまず家に帰ってお風呂に入って、おしりを洗うわけよお。なんかそんな習慣が身についてしまったんかな？

だけどな一松葉杖もやっぱりベテランというか、これは障害によっていろいろなんやけどな…小学校で僕よお講演するんですよ。子どもたち、「おっちゃん、うんちどうするん？」って必ず聞かれるんですよ。「しっこど一するん？うんちど一するん？」僕はこんな質問好きな男やから答えるんだけど、僕が松葉杖でな、こういうこの片足がですな、一本足では立てない状態なんよ。これでしゃがまれへん。ほんならどうするかいうたら、さっきみたいに直におしりつけるかなかってんだけど、やっぱりあベテランになってくるとできるんよ。やってみるな。ちょっとここでうんちのポーズをやります。

(一同笑い)

牧口： 実は、便器あるな？便器の前にたってこう松葉杖を逆手にまわすんよ。こ

うやったらできるんよ。な？こうやってできるようになってさ、こんなときに困ったことは、終わったときにふかれへんやん？

(一同笑い)

牧口：　せやから、もうこれ以上たれないなあっていうまで待ってて、おもむろにけっこうね、トイレって狭いから狭いのが逆に良くてね、手で支えたり簡単にできる。ほんで拭くわけ。めでたし・・・ということかな？だから、子どもころはそれで切り抜けてきた。それで大人になったら洋式トイレがふえたやろ？洋式トイレやったらどうってことはない。例えば、これが洋式トイレとしたらさ、うんこらしよって座ってしまったらおしましな。今のしゃれってわかった人？

(一同笑い)

わかった？そういうこつちや。今質問もらったけどうんちはなんとか切り抜けてる。他には？はい。

学生：　目の前でどうしても越えられない一段があって、それで周りに助けてくれる人が誰もいなかった時、どうしますか？

牧口：　私個人の答えでいい？日常生活でいい？松葉杖に乗り換えるだけ。

学生：　持ってなかったら・・・？

牧口：　松葉杖常に持つてる……。

(一同笑い)

— 車椅子と松葉杖の違い？ 車椅子になってできた感動なできごと —

牧口：　それより逆にね、松葉杖のときにできなくて車椅子になってできるようになったことあるんやけど当てられる？

学生：　両手をいっぺんに……。

牧口：　そうそうそう、両手をいっぺんにこれ、つかってまうがな。なあ？僕、かたっ

ぼの松葉杖だとあるかれへんやろ？足の状態からいうて……。そんならどうしても二ついるで。そしたら両手ふさがるやん？まず、荷物が持ちにくいね。今日はもってきいへんかったけど、車椅子の後ろにかご積んでるんですよ。そしてらね、スーパー買い物一発！みんな入ったとこで、かご持ってやるでしょ？僕、かごいらんねん、とつたやつ全部後ろにほっていったらいいねん。

(一同笑い)

牧口： レジをすいーつとってな、後ろの計算してって行って、ほなとつてくれて、あのビニールに包んでくれて、後ろにちゃんと中に入れなおしてくれる、ありがとさんって行ってすいーつと抜けるだけ。
それからもうひとつあるんだけど、何か気がつくことない？松葉杖の頃できなくて、こないなってできるようになったこと。きいついた？

学生： ひざの上に荷物がのせられる？

牧口： あーひざの上に荷物をのせられる……。これも結構便利やな。

— 牧口さん、60歳になって経験したロマンとは？ —

牧口： それよりこれやあー。これ、これってなーみんな当たり前かも知れんけど、僕60になるまで傘着たことなかったんやで。傘さしたことなかったんやで、させなかった……。

(傘がうまく開かず……一同笑い)

牧口： 時々あれるんやー。安もんこうてるから……。はい！

(傘がどうにかこうにか開き……一同笑い)

牧口： せっかくみんなの前でええ格好しようと思ったのに……。なんとかあいた。あのなーこれはええもんやなあ。僕60超えてからなあ、ロマンチックっていうものわかったわ。道を歩いててなー傘をさしながら歩く街を歩けるなんて……。こんなええことないで。うん。僕、こういう経験な、本当今までしたことがなくてんね。ほんでなー僕の後ろ見て。傘さす筒が二つついてるの分かる？今日一本しかないけど……。二つあるやろ？なんで傘入れ二つ作ってるか分かってくれる人？いつも実は二つさして

んねや。実はな、昨日急に雨降ってきて一本あげてもうたんや。つちゆ一か、僕急に雨が降ったとき傘がなくて困ってる人してるやん？あげるねん。そのためにいつもここにいらてんねん。ほんなら見ず知らずの人と声がかかるチャンスがでけんねん。

(一同笑い)

牧口： 昔、恋人探しにハンカチわざと落とした人いたやろ？

(一同笑い)

牧口： 同じ発想や。ほんでね一街歩いててね一頭にビニールかぶせたり、かばん頭にかぶせてば一と小走りに走ってる人いるやん？そんな人見つけて必ず「あーちょっと待って！！傘、僕もう一本持ってるからあげるでー。」大体は「あー、助かった。ありがとう。」とあっさり受け取ってくれるんやけど、中にはな一世の中、律儀な人いてるで。「ただでは、もらえん」つていわはんねん。んで、「僕、スーパーでね、大安売りのときに200円のとくにまとめてこうておきますから、200円くらいやからええつていってねんけど、「車椅子の人から、そんな恵みをうけるわけにいかん」つていってねー「あんたもオーバーやな」つ私ていうんやけど、どうしても返すつていいはんねんな。お金払うつていいはんねん、まず。お金いらんつていうのにほんあら送り返すつていいはるでしょ？送り返したら切手代のほうが高つくねんな？そんななるからいらん！つていうんやけど、名刺くれとかね、住所教えろとか…僕仕方ないからそこまでおっしゃるんだつたらつて名刺あげんねんな。ほんなら三日くらいつたら、会社になそういう人つてやっぱり送り返してくれるんや。そんな人傘だけ送り返してくるとおもつか？

(一同笑い)

牧口： だいたいな一、菓子箱がついてくんねんな一。ほんならな、僕だつて思いがけないことしてもうたことになるやろ？そこまで気をつかわせて…つて返事かいてまうわけや。そしたらそこから文通がはじまるやん。

(一同笑い)

牧口： あれが女の人やつたらもつといいねんけどなあ。
だいたい男が多いな、今まで…。

(一同笑い)

牧口： おとといもちょうど一本なくなっせん、それで。今日朝仕入れてこうかとおもってんけどな、朝早かったからスーパーよられへんかったんやわ。

傘って一……そやけど僕は雨がすきね。松葉杖の先にゴムがついてるんだけど、床がぬれてたらすべるんや。これ、普段は滑り止めのためにゴムがついてるんですけどね、ところが床がぬれとつたら返ってこのゴムがすべる元になるの。だけどね、物理的に言うと、っていうか生活で言うとかまるわけや。

だけど、僕は雨が大好きね。なんで雨が好きになったか分かってほしいんだけど、高校生のちょうど多感な頃にね、アメリカのミュージカルでね、「雨にうたえば」っていう名作……みんな知ってる？ジーン・ケリーっていうってね、タップダンスの名手がおるんよ。そいつが土砂降りの雨の中踊りまくるんよ。どしゃぶりべとべとになって！！もう、そのシーンみたときジーンときてな、これもしゃれやで。

(一同笑い)

牧口： ジーン・ケリーだけにジーンときてな、ほんで僕それから雨が大好きになって、なんで感動したかという雨と障害者似てるとおもわへん？一般的に表面的な解釈でいうと、私たちは日常生活で言う……人間って勝手だな一雨の恩恵をいっぱい受けてんのわかっていながら、友達に手紙書くときどうか？表雨降ってたらどうか？いやな雨が降ってますが……とかうっとおしい日が続いていますが……それとかうっとおしい天気です……とか書くやん？障害者も同じやで。なんとなく、なんとなくやけどみんなからうとまれてるやん？だけど、障害者がこの世の中にいなかったら人間全部からからになるで。生きてられへん状態になるで。間違いなしになるよ！障害者がいてるから、お年寄りがいてるからみんな潤いのある人間的な部分がまだのこせてるんやで。

それ、忘れてみ。私の苦勞、気になる人、苦勞かける人、私が心配な人がいなくなったら自分がせいせい生きられるって思ったら大間違いやで。自分が気になる人、心配な人、なんか助けたい人、力になりたい人がまわりにいてくれるから、人間て人間らしくいられるんやで。このこと忘れてほしくないんやで。それとな一今街に障害者がいっぱいではじめて、皆さんも目に付くやん？車椅子なんか分かりやすいから、目につくでしょ？それは知らず知らずのうちに皆さんの人生観広げてるんやで。すくなくてもね、自分が交通事故でね足がなくなっても、死のうなんておもわへんやろ？もう、みんな……。昔は死のうって思っせんやで。障害者になったらもうお先まっくらや

って死ぬ人いっぱいいてたんやで。今の皆さん、それほど短絡な考え方せーへんやろ？そりゃ、横でそういう立場で生きてるの知らず知らずのうちにわかってるからやで。そやから、知らず知らずに自分たちの人生観の幅ひろげてもらってるんや。

実は障害者が、あるいはお年寄りたちが、子供が生きてるということはね、まず自分が意識してようがしてなかろうが自分の人生観の幅を広げてもらって、自分は生かしてもらってるんやということをやっぱりちょっと考えてほしいな。そういう想像力がある人はということないんやけどな。あんま想像力がない人がこのごろ増えとんよ。私の想像力って言うのは、クリエイションじゃなくて、イマジネーションのほうやで。……あ！12時、過ぎた。

大熊： 口さんから私に投げかけられた質問にちょこっとお答えしておきます。車椅子に市議会議員さんがのると記事になるかというのは、「絵になる」、写真映えがするからなのです。「初めて……」って言うのがつくと記事は大きくなります。ですから何度もやってると載らなくなるんですけど、そこで、手を変え、品を変えなさったのだと思いますけど。

それから、欲しいコメントに仕立て上げちゃうっていうのは、残念ながら、新聞社ではしばしば行われています。事件物って言うのは社会部が受け持っているんですけども、デスクの上に帳面がぶらさがって、「こういう事件のときはこの人にコメントをもらおうと便利」って電話番号が書いてあったりします。思慮深い人は、コメントを求められても、「一週間たたないとバックグラウンドがわからないので答えられません」とかいう。するとその人にはバツをつけるの。すると思慮深いとは思われていない方がずっとリストに載ることになってしまいます。そういう人が池田の事件にしてもすぐ発言し、テレビにも出て世を惑わせたっていう……でも、新聞社側も共犯関係ということかも知れません。

話は変わりますが、「仕方がない」という言葉、日本以外でもしばしば使われるでしょうか？外国からこられた方、ありまか？ なさそうですね。

牧口： そうやなー。

大熊： 先日ある有力なポストにつかれた方のお祝いの会の時に、私が「仕方がないという言葉を使わないでください」と、はなむけの言葉を述べました。そうしたら、後輩の論説委員がいて「あの言葉はとてもこたえました」と言っていました。「仕方がない」と日本人はよくいいます。困ったことに、新聞記者も例外ではありません。

「政策を作る人に結びつく」「そのときにジャーナリズムを、協力者にしてしまう」「粉砕じゃなくて楽しく面白くやれるようなやり方」これが、東京からきたものにとっては、「大阪流」という感じ……。その大阪流の象徴みたいな人が牧口さんです。

牧口： 最後にね、時間がないからぱっとやりますけど、僕の困ってることね、緊急のときに困る。だから例えば地震が起きたり、新幹線が急に止まったり、飛行機が飛ばなくなったり、そんな状態がおこると僕はね、われ先にと人と競争できないのね、そしたらそれ以後の段取りが全部ごてごてに回っちゃうのね。ごてごてに回るのは僕別にかまわないんだけど、別に急いで生きていきたいとなんか思っていないからいいんだけど、具体的なことで困るの。たとえば、臨時バスが行ってしまったり、つまりねいろんなことで困ってくるのが起こってくるのね。そういう意味で、緊急の時は障害者は弱いです。世間で言われてる障害者は緊急の時に弱いです。その一人として僕がいて、それは例外ではない。

—ゆめ・風基金のこと—

大熊： 牧口さんはもうひとつの肩書きがあって、ゆめ風基金……

牧口： 阪神淡路大震災の時に本当に障害者ってそういう状態にあったんですよ。何かにつけて……。まずねいわれたんが、聾啞者の人がいくとそれどころじゃありませんって言われたの。障害者が行くとみんな言われたの。今それどころやないってなんや？って思うわけですけど。そういう全体が大騒ぎになってしまうとね、障害者は人間でなくなってしまうの。これは社会現象がまだそうなってるでしょ？

みんなもちよつと考えてもらったら分かると思うけど、本当はね人間って言うのはそういうときこそ弱い立場のひとから順番に助けないかんのや。理性ではわかってるけど、いざとなるときはそうならんわけですね。それが人間なわけです。そういう時は、障害者とか弱い立場のところだ一つとしわよせがくる。そういうことを嫌というほど体験したから、普段からお金をためていこうという運動をはじめたんですね。たとえば、今度北海道同じ規模の地震が起きたら、そこへ今までためたお金をば一んと送ってしまって、障害者がすすめる避難所、障害者がすすめるプレハブをすぐに建てようというサンラのですね……。

あるいは、人件費いるね、ボランティアっていったって寝泊りのお金や食費が要るわけや。そうになったら、まとまったお金がいるからそんなときのお金を集めておこうっていうので、今2億円集まってるんです。やから、当座はしのげるくらいのお金ね、たとえば障害者の設備の整ったプレハブが10個くらい建てられるやろ。あとは人件費とかね、その辺に使えるお金を当地にまず送って、当地がそれを土台にしながら復興活動をしていったらいいわけな。まず、復興活動に立ち上がるお金を普段からためとていうて運動をやっています。

牧口： 10年間で10億円集めたらと思うてね、10年間かけて1万円をくれる人を10万人集めようと思ったんですよ。間単に考えたらそんなことなんですけどね。なら10年間に1万円だと、1年間に千円でしょ？そしたら一月に百円な。これくらいなら、中学生くらいからやろうと思ったらできる。だから僕、中学校からずっと呼びかけてね、中学校から一月100円ずつ貯めていってくれてね、それを僕のところにくれたら、みんなが10年たったら、だいぶ大人になるわけやん？大人になったときにゆめかぜ基金こんなだけたまりましたー、みなさんありがとうってお互いに実現できるような夢をお互いにいだけへん？って高校生に呼びかけています。大学生にも呼びかけています。

それでも7年経ったんよ、事実7年経って、10億円の目標が二億円なんよ。でも、これが10年すぎたら今度は第二次ゆめかぜ基金っていうかたちで、また十年計画で続けてほしいという意見が多くてね、10億円たまるまで何回でもやったやろうかと……。人間の地球なんていつ地震があるかわからへんな、自然災害のときの救援募金という形でやってます。これはね、今、アフガンとかなんかで地雷で障害者になる人いっぱいいてるやん？それにどうしようかと実は今頭を悩ませてるんやな。せやけど、戦争や地雷っていうのは人因災害でしょ？人間のやったことまでしかいよっていうのが僕の基本的な考え方でね。

序言

障害を持つ人々に平等の機会を与えることに関する国連の標準規則は、アムト(県)とコムーネ(市町村)に対して何らかの意味を持っているのでしょうか？はい、もっています。しかもそれは大きな割合いで。

デンマークは、1993年12月の国連の通常総会で、他のすべての国連加盟国とともに「スタンダードルール」を承認しました。国連の文書の原文は、それぞれの加盟国の「政府」にむけたものですが、デンマークのような地方分権が非常に進んだ国を念頭に、アムト(県)とコムーネ(市町村)に向けられるべきでした。

障害を持つ人々に平等の機会を与えることに関するスタンダードルールは、例えば教育、雇用、文化、スポーツ、余暇、さらに、物理的環境や障害を持つ人々への情報に対するアクセシビリティといった重要な分野に触れています。いずれも、コムーネの責任が非常に大きいこの分野なのです。

スタンダードルールは、1998年に成立5周年を迎えた。1993年以来、それは中央集権側からの大きな興味をもつ問題でした。今度はアムトとコムーネが努力をする番です。物理的なアクセシビリティに関しては、すでに住宅省からアムトとコムーネに対し、ハンディキャップアクセシビリティに対するローカルの対処プランを立てるよう要求されています。そのような対処プランはまさに、地方分権におけるスタンダードルールの施行の一種のでもいえるでしょう。

コムーネやアムトがスタンダードルールを政策に取り込むことは、このルールが成功したといえるまさに最終的な段階です。一旦アムトとコムーネがそのような取り組みをはじめれば、障害を持つ人々に平等の機会を与えることに対する見通しがつくといえるからです。

アムトとコムーネは、継続的な発展に関するアジェンダ 21 を例にとっても、特別な分野に力を注ぐことに慣れていません。

私達はどのように障害者分野に取り組み始めればよいのでしょうか？

私達はどこに向かえばよいのでしょうか？

私達はどのようにその仕事を組織化すればよいのでしょうか？

私達はどこからアイデアを得ることができるのか？

私達のコミュニティーに障害者政策はあるのでしょうか？

もしあるのならば、誰がそれを知っているのか？

もしないのならば、それはどういったものなのでしょう？

この仕事の経験がある者はいるのでしょうか？

このパンフレットは、中央障害者委員会の求めによって、障害者平等センターによって出版されたものです。アムトとコミュニティーが障害者政策や対処プランを立てる、その努力を支える「工具箱」となるものです。

私達は多くのアイデアを収集しました。それはここ 2,3 年で非常に目立つ存在となった kolding コミュニティーのアイデアだけではないのです。

Palle Simonsen 中央障害者委員会議長

序論

このパンフレットの意図するところは、障害を持つ人々に平等の機会を与えることに関する標準規則が、責任当局がコミュニティーやアムトである分野において実際的な意味を持つ時、コミュニティーやアムトは何ができるのかということに関しての多くのアドバイスを与えることにある。これは、地元または地方の障害者政策において開始できるイニシアチブや措置の範囲についてのアイデアカタログである。

私達は、アムトとコミュニティーが優先順位をつけることが必要な状態の厳しい経済の中でやりくりしているということに気付いている。それゆえ、全てのイニシアチブを一度に、または二度に渡って実行することも現実的ではない。しかし私達はその良い障害に対して最善を尽くしてはいけない。一連のイニシアチブは高いコストをかけることなく実行することができる。単に、多くのイニシアチブがプランを立てる上で、障害に対する尊敬の念を考え、取り込むことを扱っているだけである。

より高いコストがかかる分野においてできえ、具体的、現実的な対処プランを通して追求されていくような目標を立てることによって発展させ、事業化することは可能である。対処プランの時間的な見通しについて、それが 2 年、5 年、または 10 年かかるかどうかはそれに関わる経済状況による。しかし決定的なことはその期間の長さではなく、関連する分野が確実に目標を達成することができるような行動をするための時間の枠やプランがあるということである。例えば少しでも前へ進むことは、全く行動しないことよりもずっと後々へとつながっていくのである。

このパンフレットでは最終的な鍵(答え)を全く述べてはいないが、その代わりにアイデアを収集している。そこからコムーネやアムトがアイデアを拾い、インスピレーションを得ることができる。具体的な取り組みにおいては、私達はその関連性を考慮することのできなかつた多くのローカルの条件が関わってくるが、当然のことながらそれぞれのコムーネにおいて、それは流れに影響を与える。さらにこのパンフレットでは、すでにコムーネで実施され、いい結果を出している経験のいくつかを集め、さらに他の地域につなげようという試みがなされている。つまり、毎回最初から始める理由はないのである。

障害を持つ人々に平等の機会を与えることに関する標準規則は、1993年の国連の通常総会で承認された。標準規則は、それぞれの国が障害をもつ市民に条件と機会があることを確実にしなければならないことを指摘している。全部で22の規則があり、その中では国々がどのように障害を持つ人々に社会のその他の市民と同様に平等の機会があることを確実なものにできるかという目的を表している。

デンマークにおいて、私達はすでにその規則が与えている目的を達することに関して、順調に進んでいます。しかしそれと同時に、まだ多くの改善すべき点があります。

国連のドキュメントの話があるので一國連は国際的な協力機構であるため一、その規則は言語に関しても直接それぞれの国に適用される。そしてもちろん政府や国会には、障害者政策の枠組みを作成するという上の立場の責任がある。

しかし、規則の具体的な内容をデンマーク行政の視点から見た場合、標準規則が扱っている分野の多くがコムーネもしくはアムトの責任範囲であるということにすぐに気が付く。デンマークのような地方自治の進んだ社会においては、国会が作成した枠組みを管理するのは、大部分がコムーネやアムトである。それゆえ第1次コムーネやアムツコムーネが、地方分権のレベルで標準規則が実行されるように対処プラン作りやその他のイニシアチブに関わり、進めていくというような発展が始まることが重要である。

パンフレットは3部門から成り立っている。第1部「始めの援助」では、コムーネやアムトが実際の地域でどのように標準規則を確立していくことができるかについてのアイデアを収集している。ここでは、コムーネやアムトのレベルで障害者政策を実行する前の仕事として典型的な内部の組織編成の考え方に触れている。それぞれの行政機関の誰がその規則の仕事に関わらなければならないのか？どのようにそれぞれの部門が交わりあうような形を確立することが可能か？「家」の外で誰が協力されなければならないのか？実際どのように協力がされるのか？そして誰が上の立場の責任を持つのか？

パンフレットの第2部では、Kolding コムーネの3人の行政機関のトップへのインタビューを

掲載している。Kolding コムーネは 1996 年以來、国連の標準規則に従ってきており、今日ではその取り組みをもっとも長く行っているコムーネの一つである。そのインタビューでは、3 人のトップが規則を実施した過程やその途中で出てきた問題のいくつかについて、またその問題をどのように解決したかを話している。

パンフレットの第 3 部「工具箱」では、私達がコムーネやアムツコムーネのレベルに最も関係していると思う規則に目を通し、それぞれの規則を実際の地域でどのように実施することができるかについて提案をしている。地元または地域の障害者政策に取り込むことができるイニシアチブや措置の範囲を集めたアイデアカタログの話がある。私達はアムトやコムーネが使用できる工具箱の完全なリストを作成したとは決して主張していない。これらの例の目的は、私達が直接見ることが可能なコムーネやアムツコムーネがイニシアチブのとれる分野を指摘することによって、アイデアやインスピレーションを与えることにある。

それに加え、以後私達がこのパンフレットの中で「コムーネ」という表現を使用する際は、第 1 次コムーネとアムツコムーネの両方を意味している。

初めの援助

障害を持つ人々に平等の機会を与えることに関する標準規則を実際のコムーネで生かしていくことは、実際のコムーネでは典型的である仕事の分担が大きく交差しあうプロジェクトである。コムーネの障害者政策を作成することは、色々な行政機関の部門が交差しあうプロジェクトであり、コムーネが、権力の行使者、仕事のリーダー、プランの責任者、または雇用者であるという話があろうとなかろうとコムーネの全ての責任分野を巻き込む。

それぞれのコムーネが、他と共通した、関連のある障害者政策へとつながっていく過程にどのように取り掛かり、組織化していくかは、コムーネによって異なる。それが正しいという一つの決まった方法はない。何が正しいか、そして何が適当かは一連の地域の条件による。

しかし、その過程で出てくる問題の多くがより一般的な性質のものであり、それゆえその問題は、コムーネ自体はそれぞれ大きく異なっているのにも関わらず、大部分のコムーネで共通している。すでに経験したことは、人が一度は関わる質問を生み、標準規則に従っていくという決定がなされた中、その過程を照らすことができる仕事の形を指摘する。

このパンフレットにおいてターゲットとなるグループは、アムトとコムーネであり、それゆえ私達は、イニシアチブがこの側からのものであることをスターティングポイントとしている。DSI は、一歩先を行くユーザー組織が標準規則を支えている考えを実現させるために使うことができる同じようなデータを、障害を持つ人々に向けて出版した。

コムーネの行政下の本質

プロジェクトを実現するには、全ての活動家をコムーネのシステムに関わらせることが重要である。システムの誰が、そしてどこが標準規則に従うという決定を出したかどうかは関係なく、その決定は政治的なレベル、つまり行政機関のトップである監督のレベルとそれぞれの行政機関、そしてその行政機関の職員に深く根付いていなければならない。

政治的な根付け

もしその過程が成功を収めたなら、最初から政治的な根付けができるに違いない。そのようなコムーネ議会やそれと関連する委員会が、実行されたアクティビティの責任者であると感じるといったポジティブな流れに最終的にはなった。それゆえ行政レベルでの根付けでは充分ではない。その過程を実行する義務的な政治的決定が下されなければならない。そして、コムーネ議会やそれと関連する委員会が続けてその実行されたアクティビティに関して情報を与えられ、関わっていかなければならない。国民のサポート確実なものにし、行政がプロジェクトに時間や資源を費やすことを正当化するのは政治的な根付けである。

指導的な根付け

十分な指導のサポートがなされなければならない。行政の指導がプロジェクトは重要であり、それを 100 パーセントの割合で支持するとはっきりと明確に合図を出さなければならない。指導のサポートはそれぞれの職員の雇用やプロジェクトに関係するアクティビティに時間を費やすためには必要である。

共通の障害者政策を作成することは、明らかに行政機関を交差し合うので、指導の根付けが組織の高いレベルにあること、また行政機関が交差しあって決定を下すことができることが重要である。過程を根付かす役目がコムーネのトップにあること、または最も関連性のある行政機関のトップから成る特別な運営グループを確立することも考えられる。

行政的な根付け

一般の政治的、指導的なサポートに加えて、専門分野やそれぞれの部門が交差しあうことは、まさに大きな問題を引き起こすチャレンジの一つであると様々な経験が示している。それゆえ、もし異なる行政機関の職員間の関係をしっかりと形付けることとそれほど形式的なものにしないことの両方ができれば、利点となりうる。交差しあう協力体制が引き起こす問題は、形式的な構造だけではなく、同じ割合で様々な行政機関を越えての文化の違いやお互いの仕事の分野や労働条件に対する知識が欠けていることである。

問題と取り組む方法は、様々な行政機関を越えて交差しあう「民間の」職員のワーキンググループを確立することである。そしてそのグループは、それぞれの行政機関における日常

の調整や問題解決の責任を持つ。

どの行政機関が関わるべきか？

行政の組織化は、コムーネによって異なる。それゆえ、標準規則のそれぞれの規則に対して誰が責任を持つかは、コムーネによって異なる。それぞれのコムーネは、地元で選ばれた組織モデルから離れて、それぞれの規則に対する責任を関連のある行政機関に持たせなければならない。その規則が多数の行政機関を含む時は、互いに協力をしなければならない。その場合それら行政機関のうちの一つに、重要な責任の縄持ちをさせることがたいい良いアイデアである。コムーネの行政構造次第で、それらの規則の責任はコムーネ議会の中の関連する委員会に分けられるであろう。

ユーザーと関わり合うこと

ユーザーと協力することは明らかに必要であるが、よく忘れられがちである。ユーザーを巻き込み、彼等の意見を聞くことは重要である。存在する問題を経験し、それらと共に生きていくのは彼らである。措置を良くするのはユーザーである。

過程が始まる時、ユーザーは徹底的に情報を与えられなければならない。プロジェクトに関する現実的な枠組みが与えられなければならない。そしてその取り組みの期間が明確でなければならない。行政には、市庁舎で話される言葉とはおそらく違った形でユーザーとコミュニケーションをとることが要求される。行政機関の一部が前もってユーザーを知っており、彼らの知識や経験に耳を傾けることが重要である。

誰が「ユーザー」か？

障害を持つ人々を一つのグループにまとめることはできない。彼らは他の全ての人々と同様にそれぞれが異なっている。しかし障害を持つ人々に共通することは、機能の低下によって生じる必要性が考慮されなければ、大かれ少なかれ機能の低下によって、決まった背景や状況のもとで行動することが困難、または不可能となる。機能の低下は身体的、精神的なものまたはその両方が考えられ、その程度や期間も異なる。それと同様に、その程度や期間の補償の必要性も異なる。小規模で資力の小さい障害者グループを見落とさないように、それらの違いに目を閉じることが重要である。

他者との協力

障害を持たない人々と同じ条件下でアクティブな人生を送ることができる、障害を持つ人々の機会に関する一連の状況は、その他の行政機関や組織、私的な活動家にかかっている。それゆえこのプロジェクトを成功させるには、それらの活動家をも巻き込まなければならない。そしてそれら外部の活動家が、そのプロジェクトに携わっていると感じ、ポジティブな形で積極的に取り組まなければならない。他の関連する所に「市庁舎プロジェクト」である標

準規則に従うよう圧力をかけることは、そのプロジェクトの実行を困難にする彼等の反発を生む危険を冒している。

それとは違って、その決定に関するポジティブなムードや意識をつくることができ、そして外部の協力パートナーを積極的に過程に取り込めば、その過程は自ら拡がり、コムーネの直接的な責任分野を超えて他の分野にまで影響を与えうるだろう。

コムーネには、以下の多くの協力パートナーがいる：ローカルの住宅共同体、スポーツ団体、ミュージアム。警察や救命ボートサービス。教会や集会所。地域のありとあらゆる国の施設—例えば職業安定所など。コムーネはEUのプログラムまたはEUのネットワークのいくつかに入っているのか？近隣のコムーネと協力しあう必要はあるのか？

それと同様に、例えば障害を持つ人々に対する病院での治療または特別教育や、リハビリテーション施設に関して、スタッツアムトと関わる必要がある。アムトの交通会社であるDSBや恐らく近場の港や空港に関しても考慮されなければならない。

そして、労働市場議会や社会調整委員会、アムトの協力委員会といった協力機関と関わることができる。しかしまた、民間企業との共通事項もあるだろう。それは例えば、商工会議所団体や地方新聞、医者、薬局、足療法士、理学療法士、特別な医師、歯医者、カイロプラクターである。外部の可能な協力パートナーはほとんど無数である。

準備

標準規則に取り組むというアイデアが出てきた時には、その過程が始まる前に徹底的な準備が行われなければならない。その最初の一步の一つはしばしば、そのコムーネにはすでにどういった知識があるのか、また障害を持つ人々に平等の機会を与えるために、地元ではどういったことがすでに行われたのかを調査をすることであろう。

また、すでに取り掛かっている他のコムーネを横目でちらりと見て、彼等の経験から学ぶというアイデアもある。コムーネの最も重要なサービス提供の内容や程度、目的についてサービス化することは、個人的、家事的援助を含むサービスレベルの内容や程度の質を標準化するように、学ぶことができる。また健康プランを作成する際には情報が必要であり、ローカルプランや建築ルールをさらに学ぶことができる。

協力構造

確立された協力機構が結果の決め手となることがしばしばである。その協力が始めからあり、それが機能すれば、結果は非常に近くにやってくる。それゆえ、市庁舎内部の様々な委員会や行政機関との協力や、市庁舎や障害者団体、他の外部の活動家との協力を意味す

る、そういった協力構造を確立するために時間を費やし、考えを出すことは重要である。

コムーネの地方分権の施設には、彼等のフィールド内の障害部門に関してたくさんの知識を持つ人々がいることを忘れてはいけない。彼らとその取り組みに、個人的もしくは彼等の知識を引き出す形で関わらせることは有益であろう。それと同様に、彼らにプロジェクトの流れや結果を知らせることは、少なくとも彼らや彼等の施設には有益であろう。

コムーネの内部

プロジェクトの形はしばしば、標準規則の仕事に対して非常に適した形である。プロジェクトは、例えば行政機関のトップによる運営グループが確立される一方で、実際の日常的な調整の仕事は、最も関連のある行政機関の職員から成るプロジェクトグループによって運営されるといった形で組織される。プロジェクトグループの最も重要な仕事は、彼らの所属する行政機関にアイデアを売ることである。運営グループの主要な仕事は典型的に、それぞれの行政機関の優れた関係作りや、政治的レベルへの結びつきを確実にすることからなる。ユーザーはそのプロジェクトグループに入るのか、または彼らは形付けられた協力機関の外でパートナーとして働くのかを決めなければならない。

コムーネとユーザーの協力

ユーザーと関わり合うことは、地域の代表である全ての障害者団体との集会で話を聞く、また違う方法として、障害を持つ人々に彼らの意見を人に伝えるよう求めるという形でできる。その取り組みは、個人の問題を扱うことにならないように、一般的そして原則的なレベルで行われることが重要である。ローカルの障害者委員会を確立することは、継続的な協力をもたらす非常にポジティブな方法である。さらにそのような障害者委員会においては、コムーネ監督法 第17条 4項にならって障害者団体の代表者がコムーネ議会のメンバーや役員になることができる。高齢者委員会、不服申し立て委員会、そして利用者委員会は同じ機能を満たしてはいない。なぜならそれらの機関は全く異なった仕事を抱えており、またそれらの委員会には、他の目的や政治的関心を持った全く異なる非政府組織の代表者がいるからである。

障害者委員会はプロジェクトグループのパートナーや敵として、またはプロジェクトグループの取り組みの結果として確立されることができる。ローカルの障害者委員会は、成立の段階を超えて過程を進めていくべき典型的な例であろう。もし障害者委員会がユーザーだけで成り立っているのであれば、政治家や職員と対話を進めていくことは委員会の仕事となる。

対処プランの作成

プロジェクトグループの仕事は、政策決定のために準備される取り組みの対処プランの作